



ロータリーに輝きを



会長：池ノ谷 敏正 副会長：森下 敏顕 幹事：鈴木 舜光 副幹事：大長 昭子

第2068回

●ソング それでこそロータリー
●ソングリーダー 鈴木 邦昭君



【薔薇】

写真提供：櫻井 龍太君

会長報告

池ノ谷 敏正君

皆さんこんにちは。

本日はロータリー財団委員会の卓話です。

未来の夢計画に基づく奨学金プロ

グラムの最終章。静岡産業大学の冠講座を受講し、論文を提出してくださった受講生の中より、我がクラブで成績優秀と選ばせていただいた生徒さんをお招きしての表彰式です。

クラブでも初めての試みではありますが、この事業が、我がクラブの新たな活動の礎となってくれることを願ってなりません。

ところで、最近ではめったにない遭遇することはないかと思いますが、もし道ばたに落ちていた現金を見つけたら、あなたはどのようなか。

新潟県の20代の女性教諭が、路上で拾った現金3000円をネコババし、フェイスブックに「3000円拾いました。大切に使います。」と書き込んだとして、県教育委員会から戒告処分を受けていたことがわかりました。

報道によりますと、その女性教諭は2012年9月、駐車場に落ちていた現金3000円を拾い、自分のフェイスブックにその事実を書き込んだとのこと。そして今年7月、県教委に情報提供があって事実が発覚。女性教諭は「浅はかなことをした」と認め、投稿を削除したのだそうです。

落ちている「お金」を拾って自分のものにしてしまうことは、犯罪にあたると自分も教えられましたし、自分の子どもたちにも教えてきました。

その根拠を調べてみると遺失物法第4条で、「落とし物を拾ったら速やかに、拾ったものを

落とし主の人に返すか、警察に提出しなければいけない」と決められています。これを守らずに、落としものを自分のものにしてしまうと、刑法第254条で遺失物を横領したとして、1年以下の懲役または10万円以下の罰金、もしくは科料に処せられます。

では、今回のケースで、女性教諭が3000円をちゃんと警察に提出していたらどうなっていたのでしょうか。

警察にお金を届けても、誰が落とし主かすぐには分からないことがほとんどです。そこで警察は、現金が拾われた日時・場所などを警察のホームページ等で発表し、落とし主を探します。

そして、落とし主が判明した場合、お金を拾った人は、拾った金額の5～20%を報労金としてもらえることになっています。また、警察が発表してから3カ月たっても落とし主が判明しない場合、拾った人が全額もらえることになるのはご存じのとおりです。

ですから、女性教諭がちゃんと警察に届けなければ、少なくとも報労金が適法に得られたわけですね。今回拾った金額は3000円ですから、報労金は150円～600円。もし落とし主が判明しなければ、3000円をそのままもらえたことになります。その手間を惜しんでネコババしてしまった代償は、大きかったのかもしれない。

人の振り見てわが振り直せ。

時には自己診断も必要かと思い、本日の話題とさせていただきます。

理事会報告

鈴木 舜光君

- ・11月12月のプログラムが承認されました。
- ・クリスマス家族夜間例会について承認されました。

12月17日(水)／小杉苑／18:30開会
／夫人3,000円 子供 無料

- ・新年賀詞交換合同夜間例会の出し物について承認されました。
高根白山神社の奉納神楽をお願いする。演技時間・謝礼については要確認。
- ・鈴木舜光幹事の瑞宝双光賞の受賞に関して、クラブ慶弔規定より、お祝い金（50,000 円）を用意することが承認されました。

■ 幹事報告 鈴木 舜光君

- ・第 2620 地区より
地区大会に関する案内が届いております。

■ 出席報告 松葉 義之君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
28 / 41 68.29%	34 / 42 80.95%

(1) 欠席者 (事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○河井君 ○島村君 ○畑君 ○松葉隆君
池谷君 江崎晴君 大杉君 大塚高君 落合君
鈴木透君 玉木君 仲田晃君 平野君

■ ビジター

静岡産業大学情報学部
川口 順巧学部長

静岡産業大学情報学部
谷口 正昭准教授



静岡産業大学情報学部
望月 美怜さん
陳 亜さん
籾山 宏樹さん
木村 天乙さん

■ スマイル B O X 松葉 義之君

- ・瑞宝双光章を受章しました。鈴木舜光君

スマイル累計額 62,000 円

■ ポリオプラス寄付金

ポリオ撲滅活動へのご協力有難うございます。

本日寄付金額 3,380 円

寄付金累計額 63,334 円

■ ロータリーの友紹介 石垣 善康君

2014年11月12日

ロータリーの友 11月号概況説明

11月はロータリー財団月間、インターアクト週間です。

P 3 : I R 会長メッセージ

ロータリーは、奉仕活動と友情で成り立っている。

ロータリーは活動することで素晴らしい時間を過ごせる。

友のいない生活は、人生に輝きを与えません。

P 7 : 世界で良いことをする

グローバル補助金によるインド少数民族への自立支援。

奉仕＝何の為ではなく、誰のために。
マザーテレサの言葉「仕事に意欲を失ったら、何の為でなく、誰の為にしているかを思い出さない。」

P 10 : UNHCR で活躍しているロータリー奨学生の説明。

P 16 : インターアクト活動紹介

P 22 : よねやまースリランカの学校に音楽隊を。

P 35 : ロータリー入門—パブリックスピーキング入門

心をつかむプレゼンのために。一話の枠組み、何を話すのか、
起承転結＝そのためには準備を怠らないように。

P 42 : プレゼンの為のツール紹介

P 4 : 未来予測

1969年のドラッカー、断絶の時代には
＜これからは新しい知識時代に入る＞
＜グローバル化の進行＞
＜価値の多様性＞
ドラッカーのすごさの再認識

これからの時代は、広く浅い知識を持ったゼネラリストでなく、高い価値を持つスペシャリストの時代。

■ ロータリー財団未来の夢計画

「藤枝ロータリークラブ奨学金プログラム」表彰式

《奨学金優秀論文受賞者》



最優秀
望月 美怜さん



私は、静岡産業大学、情報学部4年に在学しております。望月美怜と申します。静岡県清水区の出身です。私の家族は、父母と、兄と私の4人です。

父はアクア中部という会社を経営しています。兄は父が会社をおこす前から料理人として働いていました。そのため、父の会社を継ぐつもりはないようです。父も、私たちに会社の後を継いでもらおうということは考えていないようです。しかし、私は将来、アクア中部という会社を経営していきたいと考えています。

私が、最初に父の会社を継ぎたいと思ったきっかけは、取引先の社長に、「そろそろ息子か娘に仕事を覚えさせて、後継ぐ人間を考えたらどうだ」と言われたのに対し、父が「息子は料理人だし、娘はまだ学生だから自分の代で終わりだよ」と返しているのを聞いた時でした。2人からしたら軽い世間話で、父も悲しんでいる様子はありませんでした。しかし、長い間務めていた会社を辞めて、1からお客さんを集め直し、慣れない事務仕事をする父の姿を見ていたので、このままなくしてはいけない！！と、その時思いました。

しかし、会社経営と言っても、父が働いている姿しか見たことが無かったので、一般的に会社

経営とはどんなものか、まったくわかりませんでした。

そんな時にロータリークラブの冠講座で様々な職種の経営者の方々のお話を聞く機会を頂きました。そこで、会社を背負うという仕事がいかに大変で、責任重大であるかを知りました。父の仕事を見ているだけでは気づくことができなかった大変さも、具体的に見えてきました。

今の私には、会社を経営していく上で必要な知識も、技術も、人脈もありません。この調子では、父の会社を継ぐなどという夢は叶えられないだろうと、あきらめようと思っていた頃に、土屋富士子社長のお話を聞きました。

「出会い」というテーマでお話しをして下さり、笑顔でいることの大切さを教わりました。講義中に咳き込んで休憩に入られたとき、ほかの方々が土屋さんを中心に和やかな雰囲気でお話されているのを見て、笑顔は人を惹きつけるという話は本当なのだと実感しました。

社長になるために必要なものをほとんど持たない私にでもできることと言えば、笑顔でいることしかないと思い、まずは、小さくてもできることから実践していこうと決心しました。

また、土屋さんのお話を聞き、笑顔でいることだけではなく、話し方も重要だと感じました。笑顔で穏やかな話し方をすることで、人から好かれる人間になると思うので、それ以降は、日常生活の中でも笑顔を絶やさず、話し方にも気を配るように心がけるようになりました。

まだまだ、男性中心の社会の中で女性が第一線で働くことは、困難をとまなうことがあると思います。そこで、少しでも自分の人柄が、職場にプラスになればいいと考えています。社会人としての経験を積むためにも父の会社とは別のところで働き、少しでも早く父の仕事を手伝うことができたら、と思っています。

今、こうして時間をかけてでも、前向きに夢に向かって進んでいこうと思えるようになったのも、藤枝ロータリークラブ会員の方々のお話を聞き、背中を押していただいたからだと思っています。

このような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

優秀
陳 亜君さん



「藤枝ロータリー講座」を履修するきっかけは、友達の紹介でした。私の友達の王明永さんは現在静岡大学の大学院生です。彼は私と同じ中国の出身です。彼は英和学院大学の在学中に2回も静岡ロータリー年間奨学金をもらったことがあります。彼の話で、ロータリーは全世界の地域にあり、地域の経営者達が集まって創った社会に貢献するためのクラブだということがわかりました。今年は静岡産業大学の企業研究の中に「藤枝ロータリークラブ」という講座がありましたが、様々な経営者の話を聞くのは貴重なチャンスだと思い、受講しました。

藤枝ロータリーの講座を通じて、社長さん達は自分の経験や知識を遠慮せずに教えてくださいました。例えば、株式会社ロジテムツムラの取締役社長の久島正史さんが言っていた「人生の多様性」、株式会社共和成産の代表取締役社長の鈴木透さんが言っていた「付加価値を生かす」、土屋油店代表取締役社長の土屋富士子さんが言っていた「コミュニケーションのための笑顔」、志太洪顯さんが言っていた「力が強くなれば、責任能力も高まっていく」、社会福祉法人ハルモニアの理事長の大長昭子さんが言っていた「障害者と共に生きること」、御庭工房代表取締役の菅原慎司さんが言っていた「知ることの大切さ」、株式会社ツムラ静岡工場の工場長の間野日出男さんが言っていた「失敗を減少する法則」など、いろいろと本当に貴重な経験を教えてくださいました。それらの経験はきっと私達の未来の人生に役に立つと思っています。

ロータリークラブについて、私は詳しく分かっていないかもしれませんが、ロータリークラブを創った理由は、社会や経済の維持及び循環のためだと思います。資金を持っている経営者達は、更に良い社会の環境に自分の力を注ごうと思い、社会に貢献するためのクラブ「ロータリー」を生み出したのではないかと思います。成功者である経営者達は自分だけではなく、他人も成功させようと思って、ロータリークラブは様々なイベントや社会支援を行っているのでは

ないでしょうか。だからこそ、だれでもが日常生活の中で、偶然にロータリークラブに関わることができるのです。例えば、ロータリー奨学金、駅前のロータリークラブから贈られた木、福祉及び障害支援、今回の藤枝ロータリークラブ冠講座、ロータリークラブの支援を受けた海外留学制度などです。

学生の立場から、ロータリークラブに期待することは、企業体験というシステムを作ってほしいということです。いわゆる、インターシップのような、学生に対する短時間の企業体験の活動が行われるイベントのことです。藤枝ロータリーのロジテムツムラの取締役会長の久島正史さんが言っていた通り、「人生はいつで、どこで、どうなるか分からない」と思うからです。

現在、学校に通っている大学生は就職に悩んでいます。自分にはどんな仕事が合うのか、これからどうやって就職活動に取り組んでいけばいいのか、わからない人が多いです。やはり御庭工房代表取締役の菅原慎司さんが言っていた通りです。「これからの人生がどうなるか分からなくても、知ることは大切」です。たとえどんな分野の事でも、少しでも頭に入っていれば、必ず将来の人生に役に立ちます。ですから、学生達に対して様々な仕事の体験ができるイベントを行ってほしいのです。学生は、いろいろな体験の中で、自分に合う仕事を探しながら、様々な分野の知識を得て、自分なりの道が見つけられるのではないのでしょうか。

私は日本で就職したいと思っています。そして、もし資金があれば、日本で起業したいと考えています。日本に留学して、朝食の店が少ない事に驚いたのがきっかけです。中国へ行ってみれば分かると思いますが、朝5時から11時までの間に必ず見られるのは、人々が並んで朝食を買っているか食べている光景です。しかし、朝早いうちに仕事が始まる日本では、そういう風景があまり見られません。しかも、昼から開店する飲食店が多くて、朝から開店する飲食店が少ないです。そして、日本に来てから、本当の饅頭や肉饅頭を食べたことはありませんでした。(普通の中華料理店やコンビニで売っているのは味が全然違います)。静岡産業大学の日本語教師の谷口先生が授業で話してくださったのですが、マクドナルドの藤田さんが日本で起業したときの話は、私が飲食店を企業したいと思うヒントにもなりました。

以上の理由から、私は日本で朝食店を起業したいと思っています。中華朝食「饅頭、肉饅、南瓜餅、小籠包、八宝粥、氷豆沙、米粉、ラーメンなど」を中心に販売する朝食店を営業したいです。朝の勤務の人をターゲットとして、安くて美味しい本当の中国の味を味わえる、人気がある朝食店を目指そうと思います。朝食店が少ない日本では、いい創業のチャンスだと思っています。もし成功したら、支店を次々に開き、マクドナルドのように、全日本の飲食界に普及させたいです。そして、南瓜餅・小籠包・八宝粥・氷豆沙などの包装しやすい食品は、スーパーや小売商店でも販売できるようにしたいです。朝食は一日の中では大切な食事ですから、美味しくて栄養がある朝食に力を注ぎたいと思っています。

もしかしたら、「大きくて綺麗な夢のような話を言っているんじゃないよ。世の中は甘くないぞ。」と言われるかもしれませんが、どんな事でも試してみないと、結果は分かりません。藤枝ロータリークラブの経営者の皆さんも、20代の頃に自分が今のようなことは予想できなかったはずです。人生はいつ、どこで、どうなるか分からないので、チャンスがあれば、それを生かしてチャレンジするべきです。年を取ってから、若い頃の事を思い出して、もし私がそれを試していたら、人生はどうなっていたか、などと後悔しないように、若いうちに自分の夢を試そうと思っています。たとえ失敗しても、その経験は必ずこれからの人生に役に立つと思うからです。

佳作
刎山 宏樹さん



こんにちは、私は静岡産業大学、情報学部所属しております、刎山宏樹と申します。普段は、コンピューターを使用したアプリのプログラミングの学習をしています。将来は、コンピューターシステムの開発や管理を行う企業に就職したいと考えております。

このたび、ロータリークラブの奨学金プログラムの論文を佳作に選んでいただきました。ありがとうございます。

さて、今回私が記述した文章の内容は、おもに講義を受講して考えた、私がロータリークラブに求めたいものとして藤枝にはバリアフリーをもっと増やしていただきたいという意見と、私自身が講座を通して自分が将来、輝くことができる企業に就職したいと感じたという二点です。

まずは、バリアフリーを増やしていただきたいという私のロータリークラブへの願いを説明いたします。私がバリアフリーに関して改めて思い直すきっかけになったのは、障害者の方々とグループを組み、グループワークを行ったときです。私たちが現在、すんでいる藤枝は、障害を持っている方々にとって困ってしまうことが多いそうです。バスの乗車や下車の際、段差が高くて危ないということ、カラオケ店の机の高さが車いすの高さと合わず、座っていて疲れてしまうなど、多くの問題があげられていました。私自身、藤枝に引っ越してきてから、この町にはバリアフリーが少ないと感じていましたが、このグループワークを通じてさらに強く感じるようになりました。

もう一つは、私が将来どのような企業に就きたいか、という内容です。ロータリークラブに所属している皆様のお話はどのお話も魅力的な内容のものばかりでした。企業を立ち上げるとはどのようなことなのか、経営者としてどのような苦労をなさってきたのか、そして、企業に対する様々な思いなど、普段聞くことができない多くのお話を聞くことができました。皆様のお話を聞き、私にも新しい目標ができました。それは、私自身が輝くことができるような職場を探し出し、そこで働くというものです。

私は昔から、学校の行事で仕事を行うということが少なくありませんでした。しかし、その大半の仕事は、自分の意志で自分から率先してやろうとしたものではなく、周りの雰囲気にならされて、成り行きでこなしてきたものが多かったと思います。私自身もこのようなことでは決して良いのだろうかとずっと考えていました。しかし今回、皆様の仕事や企業活動に対する前向きな思いを耳にして、かつて自分もそのような前向きな気持ちで仕事をこなしていた時期があったことを思い出しました。それは高校時代の部活動の雑用をしていたときのことです。

私の所属していた部活は、情報処理の科目を中心とした問題を解いていく、文科系の部活でした。しかし、私自身の実力は高くはなく、いつ

も大会のレギュラーメンバーから外されてしま
う、陰の存在でした。このまま何もしないで終わ
ってしまうのは絶対に嫌だと思い、何かできな
いかと思って始めたのが部の雑用でした。部活
の戦力になれないのなら、その他のことで役立
てれば良いと思ったのがきっかけでした。問題
を印刷し、大会のメンバーに渡すこと、余った問
題を開いている棚に整理しておくなど、メンバ
ーが忙しくてやれない仕事を何でもやりました。
そのような仕事をこなしている中、ある日唐突
にメンバーからとても感謝されたことがありま
した。いつもありがとうと、その言葉を聞いたと
き、自分から誰かのために率先して仕事をする
ことの喜びに気づくことができたのです。自分
の仕事に誇りを持つことができたのです。

今回、講師の皆様のお話を聞き、そのことを思
い出しました。皆様は自分の仕事に誇りを持っ
ておられ、その姿勢にとっても共感することがで
きました。だからこそ私は、皆様のように自分の
仕事に誇りを持ち、自分自身がさらに輝けるよ
うな仕事をしたいと思いました。

以上が今回私が記述した文章の内容となります。

私は将来、コンピューターのシステム開発に
携わる仕事に就きたいと思っております。具体
的には、初めにお話した通り、プログラムを書き
込み、システムを動かしていくプログラマーの
ような仕事を目指しております。私の中学時代
からの夢です。この夢こそが、自分を輝かせるた
めの第一歩と考えております。

今後は情報処理の専門知識だけでなく、就職
に必要な一般知識も身につけ、試験対策を行っ
ていきたいと思っております。それと同時に、自
分の目指している職業についてさらに詳しく調
べ、自分がここだと思える企業をしっかりと考
えていきたいと思っております。

今回、ロータリークラブの皆様のお話を聞く
ことができて本当に良い経験になったと思いま
す。最後に今一度、このたびの奨学金プログラム
佳作に選んでいただいたことと、皆様から貴重
なお話を聞かせていただいたことに御礼申し上げ、
私の話とさせていただきます。

佳作
木村 天乙さん



始めまして、こんにちは。静岡産業大学三年生の、
木村天乙と言います。今回はこのような賞を受
賞させていただき、ありがとうございました。
私の出身地は静岡県富士市で、毎日電車とバス
で大学に通っております。所属している学科は
情報デザイン学科で、広告プランニングコース
を受けています。ゼミでは仲間と共に、マーケ
ティングについての基礎知識を学んだりしていま
す。今回も発表した論文を書くに当たって念頭
に置いたのは、「ロータリークラブの力が必要なのは
どのような人たちなのか」「どのような心構
えの社会人を目指すのか」でした。

ロータリークラブに何を期待するのかを考えた
時、福祉法人の方のお話と、自分が過去に経験し
た、障害者の方への差別の記憶が思い浮かび、障
害者の方々への、差別意識をなくすことを期待
したいと思い至りました。

私の体験上、障害者の方々への差別意識は、彼ら
のことを理解できないことが原因でありました。
ですから障害者の方々への理解を深めるような
活動をするを、ロータリークラブに期待した
のです。具体的に、どのような活動に期待する
かについては、自分の経験を元に書きました。そ
の考えが正しいのかも、私にはわかりません。で
すが、本やニュースの情報を元にして考えもの
より、自分が体験したことを元に考え付いたこ
との方が良いと思いました。

なぜならば、私が障害者の方々への理解を深め
て欲しいと思う人々は、一般の方々です。

その一般の方々の理解を得るには、同じ一般人
である、自分の経験に基づいた活動が人々の理
解を深めるのに有効だと思ったからです。論文
のもう一つのテーマである、自分が目指すもの、
それは私にとってどのような心構えを持つ人間に
なれるかという事でもありました。

大学生になるまで、私が思い描いていた社会人
像は、仕事ができる人間でした。しかし、大学で
のさまざまな講義や、ニュースや情報番組に出
てきた経営者を見たり、ロータリークラブの方
々のお話を聞くうちに、重要なのは能力より

も、どのような心構えでいるのかだと、考えを改めるようになりました。そのため、今回の論文も、社会人としてどのような心構えでいるべきか、を念頭に置いて書きました。

ロータリークラブの方々がしてくださったお話しは、社会人としての心構えを考えるに当たってとても参考になりました。どの方のお話も、とても将来のためになるお話でしたが、特に製薬会社の方と、福祉法人の方のお話は、自分が社会人になる前に聞くことが出来て良かったお話しです。お二方のお話は、方向性が全く違うものでしたが、社会人にとって最も重要である、他人のことを考える、という心構えを強く自覚させてくれるものだったからです。頭では、社会人には協調性が重要である、という事は解っていましたが、それが重要と実感することが出来ずにいました。しかし、社会人であるお二方の、感情のこもった話を生でできることにより、協調性を強く自覚できたのです。私の今後の予定ですが、大学卒業後、就職すると決めているため、就職説明会などに積極的に参加することを予定しています。

まだ、広告関係の仕事に就くことを希望しているので、イベントで行われている、広告活動を見に行くことを考えています。実際、先日行われた大道芸ワールドカップでも、キリンビールなどが宣伝をかねて出店しており、生で広告活動を見ることができる貴重な機会となりました。最後になりますが、今回、このような賞を受賞させていただき、ありがとうございました。受賞した賞に恥ずかしくないよう、これからも自分を磨く努力をしていきます。本当にありがとうございました。

(担当／大石君)